

ハチミツの摂取による乳児ボツリヌス症

県感染症情報センター

声なき感染症を知る

◆62◆

甘くて風味豊かなハチミツ(蜂蜜)は、栄養剤として用いたり、口唇の亀裂や荒れに塗る医薬品として使用することもある、天然の甘味料です。ただし、1歳未満の赤ちゃんには与えてはいけません。今回はハチミツと赤ちゃんについてお話しします。

▽赤ちゃんの腸内環境

赤ちゃんの腸内環境は大人と異なり、まだまだ未熟な状態です。生後間もない赤ちゃんのウンチは全く臭くありませんが、離乳食が始まるとともに臭くなり、離乳する1歳ごろには大人のように臭くなってきます。このように、赤ちゃんの腸内環境は、徐々に成長して大人に近づいていきますが、大人のようにハチミツの影響を受けなくなるのは、1歳を過ぎてからです。

▽ハチミツに含まれるボツリヌス菌 一般的に、ハチミツには微量の細菌などが混入していることがあります。

この微量の細菌のうち、ボツリヌス菌という細菌が、赤ちゃんには問題となります。大人の腸内には他にもたくさんの細菌(腸内細菌)がいて、ボツリヌス菌は他の腸内細菌との競争に負けてしまったため、大人がハチミツを食べても通常、何も起こりません。しかし、腸内環境が整っていない赤ちゃんでは、ボツリヌス菌が腸内で増え、毒素を産生します。

▽煮沸殺菌効果なし

ボツリヌス菌は、土や川、海の中などの自然界に広く生息しています。種子のように非常に丈夫な「芽胞(がほう)」を作り、厳しい環境でも長く生き延びます。この芽胞は、煮沸程度の加熱では死滅しません。酸素がない状態になると、芽胞から発芽して増殖し、神経を麻痺させる毒素が産生されます。大人では、芽胞だけを取り込んで発芽することなくそのまま排泄されますが、乳児では、芽胞が腸内で発芽し、毒素が作られて、神経麻痺症状が現れます。

▽乳児ボツリヌス症の症状

ボツリヌス菌に感染して乳児ボツリ

ヌス症を発生すると、便秘や哺乳力の低下の他、元気がなくなったり泣き声

が小さくなり、顔面が無表情になる、首のすわりが悪くなるなどの症状が現れます。ほとんどの場合、適切な治療により回復しますが、放置すると、呼吸も麻痺して、まれに死亡することがあ

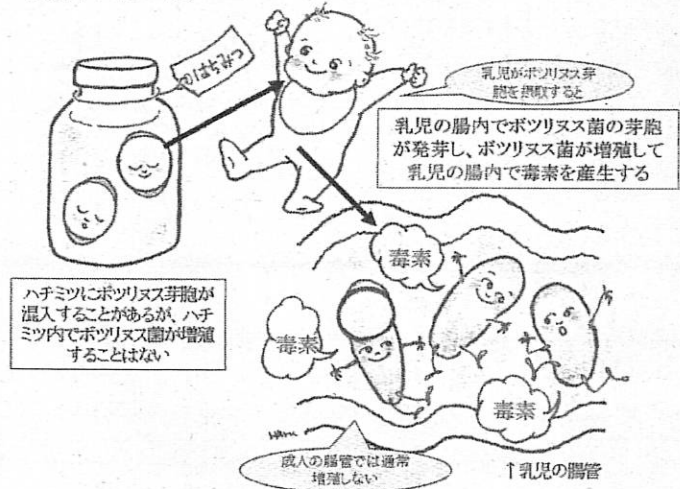
1歳未満に与えない 加工品も注意が必要

ります。

▽平成29年に死亡事例

赤ちゃんがハチミツを食べてボツリヌス菌に感染する乳児ボツリヌス症は、日本国内では非常に珍しくなっています。しかし平成29年4月に東京で、乳児ボツリヌス症による死亡事例が報

乳児ボツリヌス症



乳児ボツリヌス症の図説 (出典・国立感染症研究所ホームページ)

告されています。生後5カ月の赤ちゃんに、離乳食として市販のジュースにハチミツを混ぜて与えていたようです。

▽1歳未満にはハチミツを与えない

乳児ボツリヌス症は、井戸水や周囲環境などから感染することもあります。その場合は原因がはっきりしないことが多いのに対し、ハチミツは、乳児ボツリヌス症の原因となることがはっきりと分かっている食品であることから、1歳未満の赤ちゃんにはハチミツを与えないようにしましょう。

ハチミツを赤ちゃんに与えてはいけないことは、お母さんやお父さんだけではなく、赤ちゃんをお世話する周りの方々(祖父母等)も知っておいてください。

なお、シロップ状のハチミツそのものだけではなく、ハチミツを含む市販の加工食品(あめやジュース)も赤ちゃんに与えてはいけません。

(県感染症情報センター)